

福田牧場(川崎市)が優秀賞&審査員特別賞受賞 第40回全農酪農経営体験発表会

11月25日東京大手町の日経ホールにて「第40回全農酪農経営体験発表会」が開催され、全国から選出された6人の酪農家が一堂に集まり、自身の酪農経営についてそれぞれ発表を行った。

本県代表として選ばれた川崎市の福田牧場（代表：福田努氏）は『大都会のうしやさん 福田牧場ここにあり 〜都市化の波の中で家業を守る〜』と題して政令指定都市で唯一の酪農家となった自身の経営と酪農に対する想いを語った。福田牧場は、川崎市でも住宅が立ち並び地域にあり、酪農は2代目となる。その牧場の周囲環境や堆肥処理法は審査員や会場の来場者を驚かせた。加えて、移動動物園という手法を使って、地域



の周囲環境や堆肥処理法は審査員や会場の来場者を驚かせた。加えて、移動動物園という手法を使って、地域

に家畜や酪農の意義を理解してもらうことで都市酪農を守ってきたことが高く評価された。結果、本県の出場者として初めて審査員特別賞を受賞した。

本発表会では第40回の開催を記念して、過去を振り返り、10年後の自分と未来を語る企画が設けられた。関係者として出席した畜産事業センター相談課原田弘子職員は「今、全国の酪農家は先が見えない厳しい状況にあるが、先代たちも幾多の苦境を乗り越えたことを思い出して、この先の希望を信じる勇気を得られた」と話した。



夏の功績を冬に活かす 販売対策の確認を JA農機セールスコンクール表彰式

農機・自動車課は、JA販売担当者の士気を高め、農機の販売促進を図ることを目的とした、「JA農機セールスコンクール表彰式」を11月25日に全農かながわ田村事業所内で開催した。同コンクールでは、夏の特別推進期間（令和4年6月1日～9月30日）において、JAグループ神奈川推奨型式および共同購入トラクター(中型)の販売実績が特に優秀だった農機センターおよび担当者を表彰した。

新人賞を受賞したJAさがみ海老名農機センターの古越弘将さんは「先輩方のサポートがあり受賞できた。今後は優秀賞を自分の力で受賞できるよう日々努力していきたい」とコメントを寄せた。



新人賞を受賞した3人。
左から石井さん、鈴木さん、古越さん

同日は「農機担当者会議」「農機重点銘柄研修会」も開催。冬の農機特別推進期間（令和4年12月1日～令和5年2月28日）に向けて、販売対策の確認や、5社のメーカー担当者による各種新製品の特徴・性能に関する製品説明が行われた。

J A農機セールスコンクール表彰結果一覧(敬称略)
 1.優秀賞

J A農機センター名	氏 名
三浦市農協 初声農機センター	進藤 秀隆
東部農機センター みなみセンター	新川 祐二
東部農機センター きたセンター	永島 市朗
横浜農協 きた地区営農経済センター	山崎 昭彦
東部農機センター きたセンター	金子 義明

2.新人賞

J A農機センター名	氏 名
よこすか葉山農協 農機センター	鈴木 康平
神奈川つくい農協 農機センター	石井 寛人
さがみ農協 海老名農機センター	古越 弘将

3.農機センター賞A

J A農機センター名	内 容
三浦市農協 初声農機センター	伸率1位
横浜農協 きた地区営農経済センター	伸率2位
秦野市農協 農機センター	ポイント上位

4.農機センター賞B

J A農機センター名	内 容
よこすか葉山農協 農機センター	伸率1位
西部農機センター	伸率2位
東部農機センター きたセンター	ポイント上位

学生考案「三浦半島産」メニュー 1月18日より販売 昭和女子大学 産学連携プロジェクト

昭和女子大学の学生が考案した三浦半島産ダイコン・早春キャベツを使ったメニューの採用発表会が12月14日に都内で行われた。

本プロジェクトは三浦市農協、JAよこすか葉山、JA全農かながわ農産販売課と同大学が産学連携して取り組んでいる。栄養士や管理栄養士を目指す学生が野菜や農業の知識を深めながらレシピを考案し、三浦半島産野菜のPRおよび消費拡大喚起を目指す。

約半年間をかけて18人の学生がレシピを考案し、試作や改良など試行錯誤を繰り返した。プレゼンテーションされた36作のうち、4作の商品化が決定した。



審査に携わった岸山毅課長は「採用・不採用にかかわらず、この半年間の取り組みは必ず今後生きてくる」と学生にエールを送った。

〈販売情報〉

期間：令和5年1月18日（水）～31日（火）
 場所：玉川高島屋S・C「フーズシティ」2店舗
 28日（土）・29日（日）には三浦半島産野菜の配布を行います。※お買上げ条件あり。



12月10日には
産地見学に
行きました！

～学生さんから～

生活科学部 管理栄養学科 藤江真央さん

◆早春キャベツの甘味引き立つ石焼ビビンバ

千切りにせずとも軟らかい早春キャベツをざく切りにしてみました。その食感と甘味を活かしたメニューです。



農薬散布における省力化を目指して 防除農機体験実演会を実施

農産部東部農機センターきたセンターは11月18日、「野菜等栽培にかかる防除農機の体験実演会」をJA横浜きたグラウンドにて開催した。農薬散布における省力化や、近隣への騒音などの課題解決支援を目的に行われ、管内の生産者ら12名が参加した。

当日は株式会社丸山製作所による動力噴霧機・バッテリー動噴の実演や最新機種のドローンの散布実演が行われた。肥料・農薬メーカーも参集し、作物栽培の肥料情報や防除時などの農薬適正使用についての相談会も併せて実施された。

今回の実演会について、同センターの佐久間勝徳職員は「農機の体験を通してそれぞれの栽培に適した機種選択がされ、今後の購入支援を行うだけでなく、普段使用している肥料・農薬について生産者が持つ疑問や課題の解決の場になればと考えている。今後も随時情報提供を行っていくので、より多くの生産者に利用いただけたら」と話す。



中古農機販売会を開催

農機・自動車課は11月11・12日の両日、中古農機販売会を全農かながわ田村事業所内で開催した。

中古農機販売会は遊休農機の有効活用につながり、新車よりも安価であることから組合員の関心が高く、開催要望が多い。今回は新型コロナウイルス感染防止対策として、これまで採用していた入札方式ではなく、

あらかじめ設定した価格による抽選方式とした。

2日間で550人の来場を記録し、お目当ての農業機械を吟味する組合員の姿が多く見られた。

